

## 平成24年度新規漁業就労者調査

牧野清人

平成24年4月から25年3月までの新規漁業就労者について、県内各漁協の協力を得て調査を行った。調査内容は新規参入者の年齢、性別、業態、正組合員、准組合員の別であった。また、組合脱退者についても聞き取り調査を行った。新規参入者は132名で、年代をみると、10代の参入者は7名、また、20代から30代の人数がそれぞれ25名以上と、比較的若い漁業者の加入が多い結果となった（図1）。

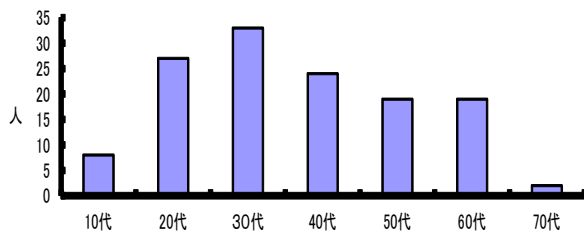


図1. 年代別参入漁業者数

新規参入者の中で、正組合員は25名、准組合員は42名、その他が65名であった。その他は組合事務局によると、組合員の資格は有しないが、加入申請を行っており、今後水揚げの状況によって組合員資格審査を受け、正組合員若しくは准組合員になる予定とのことであった（図2）。

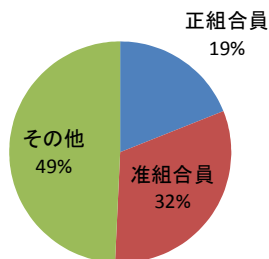


図2. 参入者における組合員資格別割合

新規参入者の漁業種類は複数の業態を行う漁業者が殆どであったが、全体をみると曳き縄一本釣りを開始している漁業者が33%と最も多く、次いでモズク養殖が13%、潜水器漁業12%、その他を除くと素潜り漁とソデイカ漁が9%の順で多い結果となった。

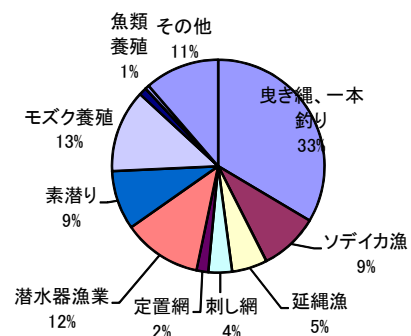


図3. 新規参入者の業態別割合

各漁協ごとの新規参入者数をみると、八重山漁協が27名と最も多く、次いで石川漁協と糸満漁協が共に9名、名護漁協と勝連漁協が共に8名の順で多い結果で、それぞれの内訳をみると、八重山では一本釣りと素潜り漁の新規参入者がほぼ同数で最も多く、勝連漁協ではモズク養殖業が最も多い結果となり、全体的に見てもそれぞれの地域において最も発展した業態で操業している。

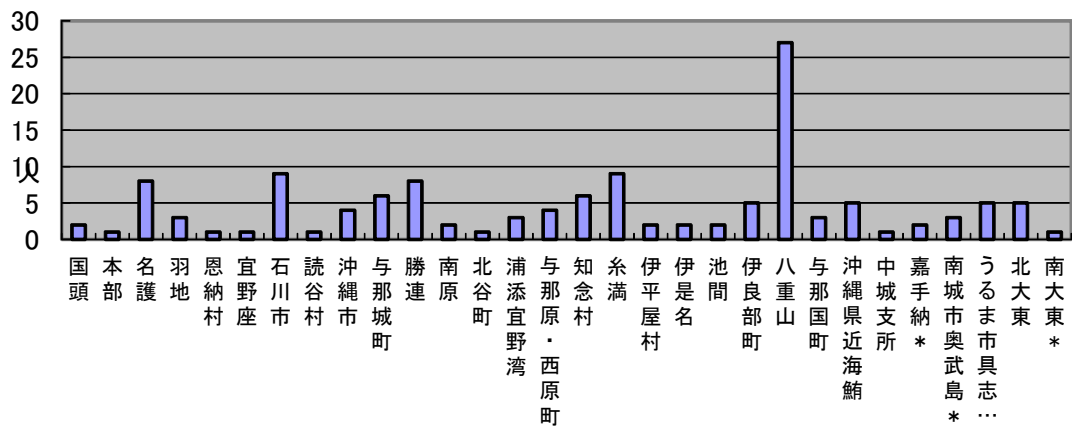


図4. 漁協別新規参加者数

平成24年度における漁協の脱退者は126名で、新規参加者が脱退者を6名上回る結果となった。脱退者の内訳は任意脱退者が30名、病気や高齢によるものが33名、組合員資格の喪失が18名、死亡による脱退者が44名であった。病気、高齢ならびに死亡による脱退者が77名であったのに対し、30代以下の若い漁業者の参加がほぼ同数であったことから、今後の沖縄県における若い漁業者の活躍と漁業技術の継承が大いに期待される。

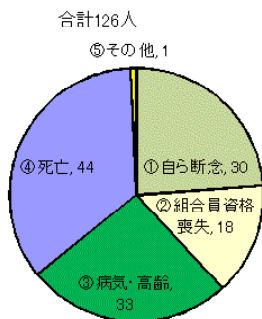


図5. 脱退者数（事由別）